

平成29年 1月24日

報道機関者 各位

島原市自主文化事業、雲仙・普賢岳噴火災害25年事業、
島原文化連盟創立70周年記念「怒る富士」の公演について

標記の件について、下記のとおり開催しますので、お知らせします。

この公演を行う前進座は、雲仙普賢岳噴火災害の翌年に、義援金を持参の上いち早く駆けつけ、この「怒る富士」を無料公演し、市民に勇気と感動を与えて下さいました。

つきましては、市民の方々に周知をはかるため、貴紙の記事等においてこの自主事業を取り上げていただくよう、ご協力をお願いします。

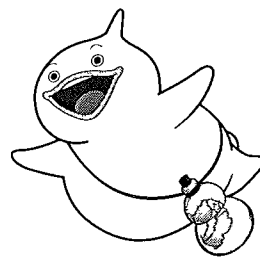
記

- 1 公演名 島原市自主文化事業・雲仙普賢岳噴火災害25年事業
・島原文化連盟創立70周年記念「怒る富士」
- 2 日時 3月4日(土)
開場13時30分、開演14時00分
- 3 場所 島原文化会館大ホール
- 4 入場券 全席指定(一般) 前売3,000円、当日3,500円
(高校生以下) 前売2,000円、当日2,500円
- 5 チケット取扱所
島原文化会館、有明総合文化会館、島原市民劇場、
横浜屋、ながせや、北田物産、
島原ショッピングモール ウィルビー
- 6 出演者 別紙資料のとおり(チラシ・出演者、あらすじ等)

有明海にひらく湧水あふれる 火山と歴史の田園都市 島原



担当 教育委員会 社会教育課(担当 吉田)
電話 0957-68-5473(直通)
E-mail shakyo@city.shimabara.lg.jp



島原守護神 しまばらん



前進座 85周年 特別公演

島原市自主文化事業

雲仙・普賢岳噴火災害25年事業／島原文化連盟創立70周年記念

後援：長崎新聞社・島原新聞社・カボチャテレビ・ひまわりてれび
FMしまばら・島原文化連盟・有明文化協会

新田次郎Ⅱ原作 田島栄Ⅱ脚色 十島英明Ⅱ演出

怒るふ

いかる

ふど

伊奈半左衛門
嵐圭史

黄金の稲穂のかなたに
仰ぎ見る
富士の姿は
いかに
かろう。

日時 平成29年 3月4日(土) 13:30開場／14:00開演

全席指定

会場 島原文化会館大ホール

料金

前売一般:3,000円／当日一般:3,500円

前売高校生以下:2,000円／当日高校生以下:2,500円

チケット前売開始：平成28年12月15日(木)／チケット販売所：島原文化会館・島原有明総合文化会館・他市内プレイガイド各所

主催：島原市・島原市教育委員会 共催：島原市教育文化振興事業団 主管：「怒る富士」公演企画実行委員会（お問合せ：島原市教育委員会社会教育課 ☎0957-68-5473）



怒る富士

これは、時の幕府の棄民政策に喘ぐ富士山麓・五十九ヶ村の農民たちと、彼らを守ろうとする復興に命を賭した関東郡代・伊奈半左衛門との、真実のものがたりである。

【あらすじ】

五代将軍綱吉の世。宝永4(1707)年11月23日(旧暦)、富士が火を噴いた。山麓の村々は焼け砂に埋まり、田畑は壊滅したのである。幕府は急遽、関東郡代・伊奈半左衛門に被災地代官を命じた。だが、幕閣たちは醜い派閥抗争に明け暮れていた。

ある日、半左衛門の陣屋に深沢村の若者・佐太郎、こども4人が訪れた。「食する物は何もなく、鳥さえも去っていった……」彼らは命がけで村の窮状を訴えたのであった。

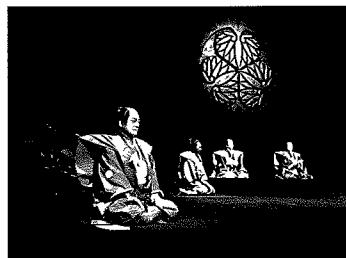
半左衛門は被災地に急行し農民を励ます。「お上は決して民を見捨てはしない——」と。

だが幕府の裁定は亡所であった。村々では飢えに倒れる者や故郷を捨てる者が相次ぐ。

将軍が代わり実権は柳沢吉保から間部越前守に移るが、誰一人として富士山麓に目を向けようとはしなかった。半左衛門は己の命を懸けて公儀に異を唱える決心をする。そして、その義心に心動かされた駿府代官・能勢権兵衛は……

【メインスタッフ】

- ◆原作——新田次郎
- ◆脚色——田島栄
- ◆演出——十島英明
- ◆美術——品川洋一
- ◆照明——寺田義雄
- ◆音楽——菅野光亮
- ◆効果——田村恵
- ◆振付——藤間多寿



平成三年六月三日。雲仙普賢岳の大火砕流から続く災害に、山麓の島原・深江の人々は避難を余儀なくされ、復興の目処も立たない一年半後の平成四年十一月、前進座さんは全国生協の支援のもと、義援金を持参の上、この「怒る富士」の無料講演に駆けつけて下さいました。

満席の文化会館で多額の義援金を手渡され、そのお芝居の熱演に私たちは大きな感動と力を得ることができました。嵐圭史さん演じる伊奈半左衛門の死を賭しての農民救済がその後の復興の何たるかを教えてくれたことは間違いありません。

この度、東日本大震災復興の為に、再び立ち上がられた前進座さんの心意気に感じ、災害二十五年度の節目にあたる当地において、島原市の協力を得て、有料での講演を実施することで恩義に報いることができればと、皆さまの協力を得て開催にこぎ着けました。皆さまには趣旨ご賢察を賜り、多数のご来場をお待ち申し上げます。

実行委員長 鐘ヶ江 管一 拝